【様式】 令和 6年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

学校名 (桑名工業高等学校)

(1) 目指す学校像	○ 「地域と歩むものづくり」のキャッチフレーズのもとに、地域と連携したものづくりに取り組み、人間性豊かで、積極的に行動できる専門的職業人を育成する学校	
(2)	育みたい児童生徒像 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 「あいさつ・身だしなみ・きれいな学校」(桑名工業三原則)に加え、時間を守ることが徹底され、真摯に授業に取り組み、部活動、生徒会活動、資格検定試験などに生き活きと取り組む生徒 ○ 「地域と歩むものづくり」を目標に、本校独自のキャリア教育を通じ、自ら考え積極的に行動できる生徒 ○ 人間性豊かな専門的職業人を目指す生徒
	ありたい教職員像	○ デュアルシステム等を通じ、教科指導とキャリア教育の充実に向けて、意欲的に取り組む教職員 ○ 失敗を恐れず常に前向きにチャレンジする姿勢を保ち続けられる教職員 ○ 生徒が興味・関心を持てる授業を展開するよう、常に研究を怠らない教職員 ○ 資格取得指導・部活動の指導や教育相談にも積極的に取り組む教職員 ○ 情報共有を行ない、学校の目指す方向を職員全体が知り、同じベクトルで向かう

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 進路実現、充実した学校生活、基礎学力の定着、資格取得</p> <p><保護者> 生徒の進路実現、基本的な生活習慣の確立、資格取得、人間性豊かな人格の形成</p> <p><地域、地元企業等> 地域で活躍できる社会性を身につけた人間性豊かな職業人の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者、中学校関係者> 情報共有、連携、協働</p> <p><地域、地元企業等> 地域で活躍できる人材育成</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者、中学校関係者> 本校教育活動への理解、協力、情報共有</p> <p><地域、地元企業等> 本校教育活動への理解、協力、情報共有、指導</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○身だしなみを整え、時間を守ることが社会人としてのマナーであり、指導を徹底してもらいたい。</p> <p>○進路決定は大切であり、就職試験・大学入試で合格を勝ち取れるように基礎学力の定着、資格取得に力を入れてもらいたい。</p> <p>○生徒募集に関して、資格の凄さや指定校で大学にも進学できることをもっと伝えるべきである。</p> <p>○保護者の学校教育への興味関心を引き、協力を得ることがより良い学校教育につながる。</p> <p>○工業教育を基本から徹底することが、社会へ出てから役に立つので、しっかり指導してもらいたい。</p> <p>○「地域と歩むものづくり」に基づき地域と連携した取り組みをしてもらいたい。</p> <p>○生徒が主体的に計画・実行している取り組みを増やしてほしい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○服装が一部の生徒において乱れかけている。</p> <p>○遅刻・途中退室がR5年度はR4年度より倍増している。</p> <p>○基礎学力が定着していない生徒が多い。</p> <p>○資格取得者数が少なく、資格合格率が低い。</p>
	学校運営等	<p>○「地域と歩むものづくり」に基づき、地域と連携した取り組みが少ない。</p> <p>○実習・インターンシップ・学校行事などにおいて、生徒が主体的に計画・実行している取り組みが少ない。</p> <p>○1次就職試験の不合格者が他校に比べ多い。工業系大学への進学者が少ない。</p> <p>○保護者への情報発信や連絡を密にすることで、連携協力体制を構築するべきである。</p> <p>○工業高校の魅力、桑名工業高校の魅力の発信は例年以上に行ったが、まだまだ不足している。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ol style="list-style-type: none"> 桑名工業三原則の堅持に加え、時間を守ることの徹底に努める。 規律ある授業を行いつつ、基礎・基本を大切に魅力ある授業づくりに努める。 インターンシップ・デュアルシステムなどキャリア教育を推進し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、工業への見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。 地域と連携したものづくりを行うことで、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できるよう学習活動の充実を図る。 資格取得指導を充実させるとともに、基礎学力の定着と向上に努め、工業高校指導者の育成に努める。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 「情報共有と連携」をキーワードに意識統一を行い、チーム桑名工業で取り組む組織づくりを進める。 コンプライアンス研修を定期的実施し、コンプライアンス遵守を徹底する。 部活動指導を複数顧問が交代で行うなど、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における学修に必要な基礎学力を有していること。(知識・技能) ・基礎的な思考力・判断力・表現力を有していること。あるいは、それらを身につける意欲を有していること。(思考力・判断力・表現力) ・活気あふれる学校生活をめざし、部活動や生徒会活動、ボランティア活動または資格検定試験などに積極的に取り組む意欲を有していること。(主体性)
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価指標

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力ある授業作り・基礎学力定着・三原則の堅持	<p><1学年> 基礎学力の定着を一番の目標として朝のSHRで学習を行う。また、教材研究や指導方法を工夫し、教員間で情報交換を行い授業力の向上を図ります。</p> <p><授業満足度> 【活動指標】 授業満足度調査のアンケート 【成果指標】 満足度80%以上</p> <p><基礎学力> 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90%</p>	<p>「朝学」で新しい教材を利用し、国数英の基礎学力の定着を図り、一定の学習習慣と成果が見られた。教員間の生徒情報交換により、個別指導も実施した。</p>	
	<p><2学年> 教員間のコミュニケーションの充実を図り、スムーズな組織運営ができるように努める。各学期終わりに授業アンケートを実施し、満足度が目標を超えられるように教科担当者に結果をフィードバックする。基礎学力定着に向けて、朝のSHRの時間に5教科を中心とした小テストを行う。</p> <p><授業満足度> 【活動指標】 授業満足度調査のアンケート 【成果指標】 満足度80%以上</p> <p><基礎学力> 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90%</p>	<p>教員間のコミュニケーションを大切に、情報共有し学年としての運営を行うことができた。授業アンケートを実施することができなかつたため、3学期に授業アンケートをとる。本年度から実施した、朝の勉強会については年間通して実施し、学習習慣の定着に一定の成果が見られた。</p> <p>基礎学力テスト(9月)において、D2ランク以上の生徒は82%であったが、A,Bランクの成績上位層が13人から19人にのびた。</p>	
	<p><3学年> 満足のできる進路実現に向け、基礎学力定着へ向け朝のSHRで学習に取り組む。</p> <p><授業満足度> 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90%</p>	<p>進路実現のため朝のSHRにて、一般常識とSPIの問題に取り組んだ。その結果、就職試験の際に学力試験を理由に不合格になる生徒はいなかった。また、4月時点ではD2以上の生徒が61.3%であったが、6月では67.7%に上昇した。</p>	
	<p><教務部> 公開授業、研究授業を年1回以上実施するとともに、授業振り返りシートを活用し、教員の授業スキルアップに努めます。また、規律ある授業展開を促進し、どの生徒も学びやすい雰囲気をつくり、基礎学力の向上につなげます。</p> <p><図書> 利用者への資料提供(書籍購入、相互貸借)、「調べもの、探しもの」などの情報提供の補助といった基本的な図書館のレファレンス業務の推進、基礎分野や専門分野の書籍の充実、そして調べ学習に対応可能な図書館として配架、蔵書冊数の充実を図り利用者支援について一層励みます。 生徒や教職員に向けた情報資源の収集・活用方法の指導及び提案を行っていきます。 生徒が司書室へ入室する際に桑名工業三原則を徹底させ、基本的な生活習慣の確立を目指します。</p>	<p><教務部> 公開授業、研究授業を実施し、授業参観アンケートを行い、ICTの活用を含めた授業力向上のために意見交換をしました。規律ある授業展開を意識し、教員相互に連携に努めました。新学習指導要領の実施にあたり、新しい評価基準の実施と見直しに努めました。</p> <p><図書> 県事業「本を読もう!読書活動推進事業」にモデル校としてエントリーし、図書館利用促進のための計画を実践し、授業利用や来館者、貸出利用率も増加しました。 今年度のデータ(2025/1/10現在)は下記のとおりでした。 受入蔵書 289冊(購入 265冊、寄贈 24冊) 貸出統計1484冊(生徒 1001冊、教員 483冊) 相互貸借 6件(貸出 67冊 借受 10冊) リクエストによる書籍購入 54件 レファレンス相談件数 12件 授業による図書館利用件数 5件(46時間) 部活による図書館利用件数 3件</p>	
	<p><進路指導> 【活動指標】魅力ある授業づくりのため、教材や指導法について教員間で情報交換を行い授業力の向上を図り、生徒が希望する進路実現のための学力充実を図ります。 【成果指標】桑名工業三原則のあいさつ、身だしなみ、きれいな学校を堅持し、社会において大切なことであることを理解させます。</p>	<p>社会人としてのマナーや基本的な生活習慣を身につけるよう教員間で情報を共有し指導することができている。また基礎学力定着に向けた教材などを計画して進めることができおり、今後はその成果を検証していく必要がある。</p>	
	<p><生徒指導>朝の登校指導において挨拶や服装指導を行い、遅刻者には理由の確認と根本的な原因の改善を促す。保護者への連絡と協力をお願いする。服装については全職員で指導する。日頃の学級活動や清掃指導を通じて学習するための環境づくりを徹底・推進する指導体制をつくる。 【活動指標】遅刻統計を毎月公表する。月2回の遅刻で面談と奉仕作業をする。 【成果指標】体調不良以外の遅刻者数を30%減少させる。</p>	<p>遅刻者数が前年度より22%減少にとどまりました。遅刻者については毎回話をし根本的な生活習慣を身につけるようにしており、2学期以降遅刻者数が減少しました。</p>	

魅力ある授業作り・基礎学力定着・三原則の堅持

<保健安全部>
 ・保健室利用の際に挨拶や身だしなみの指導を行い、生徒一人ひとりの個性を尊重し、親切でこまやかな対応を心がけます。
 ・清潔な保健室の維持に努め、生徒にも職員にも快適な室内環境を整備し、過ごしやすく働きやすい環境づくりを目指します。
【活動指標】
 ・生徒をていねいに観察し、心身の早期回復を目指して適切な処置・対応を行います。
 ・本校職員の健康維持のため必要な情報を提供し適切な支援を行います。

<保健安全部>
 ・挨拶や身だしなみの指導は目標通り実施できたと思います。
 ・清潔な保健室、快適な室内環境の整備および過ごしやすく働きやすい環境づくりについても目標を達成できたと思います。
【活動指標】
 ・生徒の心身の早期回復を目指した適切な処置、対応についても概ね目標を達成できたと思います。
 ・本校職員のための情報提供と適切な支援についてもほぼ目標を達成できたと思います。

<電気系>
 ・小さな「わかる」の積み重ねで人生が「かわる」を生徒に還元するべく
 ①授業の教材や指導法において教員間で情報交換および相互のスキルアップをはかり職員の授業力向上を目指します。
 ②電気系の資格取得を勧め、資格取得指導において情報共有をはかり職員の指導力向上を目指します。
 ③生徒に対し基礎基本を中心とした学習指導に力を入れるとともに、課題解決能力の育成を目指します。
 ・自立する18歳を目標に、将来困ったときに主体的に解決できるような考え方ができるように取り組みます。
 ・生徒、職員が一丸となって「きれいな学校づくり」をさらに推し進め、電気実習棟の整理整頓をすすめます。準備、あと片付け等の基本姿勢とともに、「あいさつや身だしなみ」など基本行動の習慣化に取り組みます。
【活動指標】
 学習内容が「わかるできる」ことより、生徒全員が授業に対する達成感（満足度）を得られるよう努めます。
 電気系実習棟の実習室および廊下における美化を徹底します。
【成果指標】
 年度末における生徒の授業に対する満足度が80%以上になることを目指します。
 電気系実習棟の実習室および廊下において「ちり・ごみ」がなくきれいな状況となるよう取り組みます。

高校生活3年間で「自立する18歳」をゴールに定め、授業・実習を通して基本的な手法を身に付け、探究ができるようになること。仮説を立ててダメだったら修正をする取り組みを実施している。授業形態ではインプット型の学習展開ではなくアウトプット型の学習にシフトし、理解できたことを人に伝え、より理解を深めるとともにチームで取り組み個々の能力向上を図り、授業・実習内容の達成感を得られるように取り組んでいる。教育活動を通して短期・中期・長期の目標を定め、クリアするごとに自己肯定感を得られることから自ら学習をしようとするよう取り組んでいる。この世代はこれまでのような演習がなされていない（コロナ禍の教育）ので、ペーパーベースで演習することに加え、チャットGPTを教育ツールに使い、自ら考え工夫したノートを作成できるように取り組んでいる。危険予知・危険防止の安全教育の観点からも整理・整頓と清掃活動はしっかりできている。実習前にはツールボックスミーティングを行い安全意識を持たせている。授業・実習の取り組みから「チームで協力する」ことにも取り組み、多様な人と目標達成に向けて協力する力の育成にも取り組んでいる。

<機械系>
 ・基礎基本を大切に、生徒たちが深い学びを体感できる授業を実践するとともに、手法や技法について教員間で情報を共有することで、機械系教員全体の知識や技術の向上に努めます。
 ・桑名工業三原則および安全作業を徹底することで、工業そのものの見方や考え方を涵養し、より実践的な学習活動を行います。
【活動指標】
 ・基本的な知識の定着を図り、そのうえで専門的な知識を積み上げるよう系統的な授業展開をする。
 ・ICT等を積極的に活用して視覚的な教材を提示し、より具体的に学習内容が理解できるように努めた授業を展開します。
 ・実習前点呼や作業前の安全指導を徹底し、教員においても実習室の環境整備・整理・整頓に努めます。
【成果指標】
 ・授業や実習でのICT活用率と生徒の授業満足度が高水準（80%以上）を保つことを目指します。
 ・作業中の重大事故・災害ゼロを目指し、「安全で学びやすい」教育環境の実現を目指します。

<機械系>
 ・生徒間の学力差が大きい実情を踏まえ、基礎・基本を基盤に難易度を段階的に上げ、発展的な授業展開に心がけることができた。また生徒個人の能力と応用力を進展させるため理解度に沿った課題や応用問題の設定などの教員間の情報共有を行うなどして、効果的な学習活動を実践することができた。
 ・ICTの活用については、Google ClassroomやSlid、Microsoft PowerPointなどにより、従来説明が難しかった機構や加工法の仕組みや特徴を視覚的に提示することができ、生徒が興味をもって教材に取り組むことにより、その理解度を向上させることができた。
 ・実習前の安全指導や、各工程ごとの安全作業の徹底、実習環境の点検と危険因子の未然排除を心がけ、「安全で学びやすい教育環境」を実現することができた。

<1学年> ICTを活用したクラス運営と授業の展開、学年校務の効率化を実施します。生徒が進路実現に合致したコース選択ができるように支援します。
<ICT活用> **【活動指標】** G-suite for Educationを利用 **【成果指標】** クラスルーム参加率100%
<コース選択>
【活動指標】 コースガイダンス(2回)、系ガイダンス、実習見学会(2回)、コース選択面談(3回)を実施します。
【成果指標】 生徒のコース選択満足度100%。

教育活動全般においてipadを利用できている。授業や課題、連絡、各種アンケート等もクラスルームを効率的に使うことができた。クラスルーム参加率は100%である。
 系やキャリア探究部と連携して、コースガイダンス、各系でのガイダンス・実習見学会、コース選択面談を指標通り実施できた。生徒は上記での説明等により、自身の進路を考え、担任との面談を通して各自に適したコース選択をすることができた。

<2学年> 主体的・対話的で深い学びの中で、生徒が満足できる進路実現に向けて情報発信等で支援します。
【活動指標】 進路シミュレーション活動、インターンシップ実習体験、進路ガイダンス、3年生進路体験報告会
【成果指標】 満足度100%

1学期末に行われたインターンシップ、2学期末の進路ガイダンス、3年生進路体験報告会を通して、進路意識を高めることができた。進路決定に向け3学期の進路シミュレーションを充実させていく。

キャリア教育・資格・地域と連携したもの作り

<3学年> 進路選択に必要な知識を身につけるため、企業や学校研究に努め、職業理解を深める。また、資格取得を奨励します。

<進路選択>
【活動指標】 進路シミュレーションを通じて生徒・保護者の希望に沿った進路決定を実現する。
【成果指標】 進路決定に伴う生徒・保護者との面談を通じて第1希望の進路決定率100%

<資格取得>
【活動指標】 有用な資格取得を奨励する。
【成果指標】 履歴書の資格欄に資格を記入できる生徒の割合が100%

進路シミュレーションや進路講話などの進路行事を通じて、進路選択に必要な知識を身に付けた結果、97%が生徒が希望通りの進路を実現した。

資格取得については、履歴書を記入する時点で資格保持率が93%とほとんどの生徒が資格を記入することができた。

<教務部>
 授業時間の確保や、キャリア教育に関するより深い探究ができるカリキュラムを編成します。

<教務部：図書>
 生徒の進路選択の判断材料となる幅広い分野の資料収集、及び職業選択やインターンシップの参考となる資料の購入、地元企業の持つ技術力に関連する専門資料、資格試験に役立つ資料の充実を進めます。

<教務部>
 授業時間の確保に努め、各教科と連携してカリキュラム編成の見直しに努めました。

<教務部：図書>
 生徒、先生からのリクエストに応えつつ、工業科の先生方の意見を参考にし、各業界に関する資料を購入したり、古い資料の除籍、更新を行いました。また、就職試験、資格取得及び面接に関する資料の充実と勉強のためのスペースのリニューアルを行いました。

<情報>

- ・教科担当教員の授業におけるICT機器の活用率の向上、及び生徒購入iPadの使用率向上を図る。その為に、情報研修の充実と参加率100%を目指す。さらなる充実を図るために環境整備改善に努める。
- ・近未来に向けた生徒の情報活用能力や主体性を持った考え方を育て、society5.0で実現する社会に対応出来る人材を育成できるように最新情報を学校全体で共有する。
- ・学校HPを月5回更新など広報活動に努め、本校受験者数確保に向け情報発信を行う。

2024年度中に、全教科でICT機器を活用した授業を実施するという目標を掲げ、教材開発の支援を実施した。結果、特に専門教科では目標を達成することができ、週1回以上のICT活用に貢献し、生徒の能力向上に寄与した。生徒アンケートからも「学習意欲が高まった」などの声が聞かれた。今後は、さらに高度なICT活用を推進するため、教員のスキルアップを図るとともに、生徒の主体的な学習を促すような教材開発を支援していきたい。更に、学校ホームページでは月5回以上の更新を行い、幅広い広報活動に努めた。

<進路指導>

【活動指標】 キャリア教育を推進し正しい勤労観・職業観の育成を目指し、豊かな人間性を育み生涯の見通しを持たせる教育を実践します。また一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる態度を育成します。

【成果指標】

- ・3年生には就職試験および進学対策としての面接指導を複数回実施します。6月に業者に委託した模擬面接指導、9月に全職員対応の模擬面接指導を実施します。
- ・2年生には12月以降に「進路決定シミュレーション」など進路決定に向けた対策を早期から実施し、生徒が自主的に進路を決定する機会を与えます。
- ・1年生には入学後からコース選択の取組みにより、将来の進路実現を考えさせる機会を作ります。また、12月には職業適性検査を実施し個々の適性について学ぶ機会を設定します。
- ・特別な支援が必要な生徒を早期に把握し、該当生徒に関係するすべての職員の協力と理解を得ながら、生徒自身が進路実現に必要なスキルや方策を身につけられるよう、個別の支援策を教育相談係と連携して行います。
- ・各学年で複数回の進路講話や職業理解ガイダンス等を実施します。

活動指標通り、概ね計画通り実施できた。

- ・3学年は、面接指導(6/7(業者)、9/3・4(全職員))、進路講話(4/19、6/26、6/9)と計画通り実施できた。就職・進学とも生徒の希望する進路へ進むことができた。
- ・2学年は、12月の「進路成果発表会」で3年生からの話を聞き、「進路決定シミュレーション」に向けた「Handy」の登録を行うなど計画通り進められている。また、新たに「企業講話」(2/14)を行い、社会人としての資質を考えさせながら、3月の「進路ガイダンス」を進めることができています。
- ・1学年は、自分の進路に考えさせる機会を作ることで、様々な分野について知ることができています。3月の「進路ガイダンス」に向けて事前にアンケート実施することで、より生徒の興味関心のある進路分野について知ることができるようになり、進路実現に必要なスキルを身につけられるようにした。

<キャリア探究部>

- ・1年次は、桑名工業高校成果発表会やポスターセッションを通して、地元や周辺企業の特徴等を知ること、勤労感を知り、将来の進路選択についてのビジョンを考えさせます。
- ・2年次は、特にインターンシップを通して、生徒自らが適正な職業感や、必要な資格や技術について考え、セルフマネジメントを行なうための大きな機会とします。また、デュアルシステム専攻生徒に関しては、企業での実習等を通して適正な職業観やセルフマネジメントに加えて、対人関係スキルなどの人間力の向上にも努めさせます。
- ・3年次は、これまで実施してきたインターンシップや企業での実習等を通して身に付けた力を、進路実現に向けて大いに発揮させ、社会人になるにあたっての心構えを定着させます。

【活動指標】
 インターンシップや企業での実習を充実させるものとするため、事前指導をより徹底し、生徒たちに実施する意義や身に付けてほしい力について十分に理解させ、その意欲を喚起させます。体験する希望職種に対応できる企業の開拓、ならびに受け

<キャリア探究部>

- ・今年度は、特に例年行なっているインターンシップや、桑名商工会議所主催による合同進路説明会、そして合同進路セミナーと段階的に進路実現に向けた行事を開催したことにより、進路実現に向けての意識付けを早くからできたことにより、就職先や身に付けておく資格や技術などを、より明確に示す生徒が多くみられた。
- ・デュアルシステム専攻生徒については、非認知能力を測定し数値化できるシステムを新たに導入した。そのことで、生徒たちは自分の強みを知るだけでなく、企業実習や授業の中で伸ばしたい能力に対してアプローチする動きが見えた。また、企業側ともそのシステムを共有することで、企業と学校双方で生徒の効果的支援を構築し実施することで、更なる能力の向上が見えた。また、STEAMプログラム(教科横断の課題解決型学習)を実施したことにより、生徒の論理的思考力、協働性等の資質や能力の向上に努めることができた。
- ・インターンシップや合同進路説明会の事前指導において、特に担任団とのwebも用いての情報共有を密にしたことにより、指導の内容や意義を生徒たちにより深く落とし込

入れ態勢の調査のために、企業訪問や担当者との面談を複数回実施します。また、キャリア教育の充実に向けて、企業や大学そして地域と連携した授業や学校行事等を実施し、その内容を校内で共有することで、他の先生方もキャリア教育を実施できる環境を整備していきます。

【成果指標】
インターンシップは地域産業やその特色を知り、働くことについて考える最初の一步となることから、指導の充実とアンケートによる理解度・満足度の高い数値を維持し、その結果を後の進路指導に活かします。インターンシップや企業での実習だけでなく、成果発表会やポスターセッションでの発表を通して、思考力や表現力に加えて自己理解や他者理解などを向上させ、個々に応じた人格を形成できるようにします。また、企業アンケートについても、満足度を高い水準で維持するために、その結果を生徒にフィードバックし、自身に必要な知識等に気付き、それが定着できるようにします。

むことができ、インターンシップでの取り組みや合同進路説明会の内容が充実したものとなった

- ・パートナーズ登録の新規企業開拓において、今年度は企業実習参加以外にも、技術提携や授業参加にも積極的な企業もみられたことで、教員の指導内容と企業の持つ知識や技術を結び付け、授業内容の充実のきっかけに繋げることができた
- ・成果発表会におけるインターンシップや課題研究等の発表において、担当教員の創意工夫のおかげもあり、生徒たちの表現力が年々向上している。また、デュアルシステム専攻生徒においては、成果発表会でのスライドやポスターセッションで作成するポスターを見える化したことにより、早い段階から構想等の準備ができたことで、内容の充実や表現力の向上に繋げることができた。

<保健安全>
・保健室への入退室の際、社会人として望ましいマナーが身につくよう指導します。
・生徒との対話を積極的におこない、社会人としての資質が向上するよう指導します。
・感染症について正確な情報を発信し、社会人として必要な感染予防の意識を高めるよう指導します。
・健康チェックを毎日確実にに行い、自他の健康の維持について高い意識を持たせ、集団の安全・安心を守る意識を育みます。

【活動指標】
・服装や言葉遣い、マナーや行動について正しくできるまで根気良く指導します。定着率100%を目指します。

<保健安全>
1. 入退室の際の望ましいマナーの指導は目標通りできたと思います。
2. 生徒との対話を通して社会人としての資質向上を目指す取り組みもほぼ達成できたと思います。

【活動指標】
・服装や言葉遣い、マナー等の指導については概ね達成できたと思います。

<電気系>
・主体的・対話的で深い学びが実現できる授業を目指して授業内容を工夫し、学年に応じた生徒の生きる力を育て、地域で活躍し地域に貢献できる人材となることを目指します。
・生徒一人ひとりが思考力・判断力・表現力を養い、課題を解決する力を身につけるとともに自らの個性を伸ばし、かつ多様な生徒同士が協働して課題の解決に生かせる授業環境を目指します。
・資格は将来の仕事を考えるアイテムであることを認識させ、資格試験・検定試験の指導を充実させて合格率の向上を目指し、生徒に自信をつける取り組みをします。

【活動指標】
クラス全員で受検する検定試験や国家資格試験において、合格率を高めるよう努めます。

【成果指標】
1年生のクラス全員で受検するものにおいて、計算技術検定3級90%以上、情報技術検定3級80%以上、危険物取扱者試験乙種第4類60%以上、第2種電気工事士60%以上の合格を目指します。上位学年は、さらに上位の資格取得への挑戦者を育成します。

・授業・実習で多くの失敗をし、その原因を発見し次につなげ成功となるべく、チャレンジできる環境を整えている。系の目標である「自立する18歳」に向けて教育活動を通して①前に踏み出す力 ②考え抜く力 ③チームで取り組むを育成すべく教員間で共有し取り組んでいる。具体的には①生徒が自らやるべきことを見つけ行動する。②できないことがあれば周囲を巻き込む。③状況を分析し、目的・課題を明らかにする。④目標達成に向けて協力する。ことができるように指導している。

- ①第三種電気主任技術者 2科目合格 1名
- ②第一種電気工事士 4/8 50%
- ③第二種電気工事士 32/79 41% (1年生)
- ④危険物取扱者乙種四類 2月下旬受験 (1年生)
- ⑤計算技術検定4級 73/80 91%
- ⑥機械保全技能検定(電気保全)3級 6/6 100%
下期(2月)に2級2名、3級に10名が受験
- ⑦第2級陸上特殊無線技士3月受験(2年3・4組)

<機械系>
・地域や社会に貢献できる人材を育成するため、生徒一人ひとりが共同・協同・協働するために必要なさまざまな力を身につける授業や機会を提供することを目指します。
・資格や検定試験に向けて補習を充実させるだけでなく、特に合格率が伸び悩む試験の合格率向上を目指します。

【活動指標】
・工場見学や校外活動、そして系独自の取り組みの中で、生徒たちが各取り組みにおいて達成感が得られるよう努めます。
・各種資格取得や課題解決に向けて、教員間での情報共有や指導方法の改善を行うよう努めます。

【成果指標】

危険物丙種	80%合格
危険物乙種四類	50%合格
情報技術検定3級	60%合格
計算技術検定3級	80%合格
各種3級技能士	100%合格
機械製図検定	50%合格
パソコン利用検定	70%合格

<機械系>
・2年生のインターンシップや1年生の短期企業実習、専門学校などの外部講師からキャリア教育講義を受講し、働く意義や将来の進路実現に向け考える機会を得ることができた。また、合同進路説明会など特に地元企業に関する情報を提供することで、地域企業の業種やその特徴を理解し、進路意識の向上と進路選択の幅を広げることができた。

- ・工場見学については、企業側の受け入れ体制が整わず今年度は実施できなかった。
- ・資格取得に向けて、放課後の補習を実施したが、合格実績に結びつけることができなかった。資格取得指導についてはさらなる検討が必要である。

危険物丙種	80%合格
危険物乙4類	11%合格
情報技術検定3級	%合格
計算技術検定3級	78%合格
各種3級技能士	91%合格
機械製図検定	28%合格
パソコン利用検定	62%合格

<生徒指導>挨拶・身だしなみ・きれいな学校を維持し、校内全域で学年・科を超えての指導をするために職員間の共通理解を図る。生徒自ら積極的にマナーや清潔な頭髪を含め身だしなみに気配りできるよう、声掛けをしていく。社会人として必要なマナーを身につけさせる。

挨拶はほとんどの生徒がしてくれる。身だしなみも着こなし講座を実施し良くなった。きれいな学校に関してはロッカーの上の荷物などやゴミなどが散乱しないようにしていきたい。頭髪ルールが緩くなり清潔感がない生徒が増えてきた。

改善課題

あいさつは大きな声でできるようになった。時間も2学期以降守れるようになり、遅刻が大幅に減少した。教室にゴミや教科書・ノートが散乱しているクラスが見受けられる。心を落ち着かせるためにもきれいな教室・学校を目指していきたい。資格取得に向けて補習を積極的に行ったが、希望者のみが参加のため参加者が少なく結果に結びついていない。しかし、SHRでの基礎学力定着の取組が基礎力診断テストの結果に結びつつあるので、さらに成果を上げていきたい。そのために生徒の学習意欲を高める指導方法を全教職員で模索していきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報共有と連携	<p><1学年> 学年団や関係部署との連携をはかり、日常のコミュニケーションの中で情報共有できるように心がけます。</p>	<p>普段から担任団や教科、各分掌とも情報共有を積極的に行うことができた。</p>	
	<p><2学年> 各部署との連携をはかり、教職員間のコミュニケーションと情報共有を大切にします。</p>	<p>学年団内、各部署との連携をとり、生徒対応、行事を遂行できた。</p>	
	<p><3学年> 進路実現に向け保護者との連携を密に行います。 関係部署との連携を図り、情報共有や教職員間のコミュニケーションを大切にします。 面接指導の時間を大切に複数回関わってもらいます。</p>	<p>進路実現に向けて、本人や保護者との話し合いをしっかりと行うことができた。 関連部署と連携を図り、生徒への対応を迅速に行うことができた。 学校全体での面接練習後も各先生に複数回にわたり面接指導をしていただきました。</p>	
	<p><電気系> ・校内グループウェア、系会議を利用して情報共有・交換をすすめ、系内における問題点を全職員で共有し、協力して課題解決にあたります。 ・教員個々の特技と知識を活かし、これを皆で共有してスキルアップを目指します。そして経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。 【活動指標】電気系職員の授業や資格指導に協働して取組み、教員相互間の連携に対する達成感を高めるよう努め、生徒のゴールは「自立する18歳」を最高目標となるべく職員間連携して取り組みます。 【成果指標】日常の業務を通して「気付いたこと」を職員間で共有し改善に取り組み修正し生徒に還元評価する。</p>	<p>・実習の休憩時間、教科の空き時間を使って情報共有を実施し、生徒の様子・授業展開等教員間で共有を図っている。 ・資格取得等、放課後に実施していることに関しては教員の協力体制ができており、生徒のスキルアップ・教員間のスキルアップになっているし、改善活動にもつながっている。このことは職務の効率化にも寄与している。</p>	
	<p><機械系> ・系会議等において、教員間の意見交換や情報共有を積極的に行うことができる話しやすい環境をつくり、課題解決に向けて実践しやすいよう協力・協働に努めます。 ・各実習における生徒の安全確保に努めます。 【活動指標】 ・機械系教員が授業も含めた新たな取り組みを行い、その情報や結果そして課題についても共有します。 ・各実習で生徒情報を共有し、工作機械の少しの不具合についても意見を交換することで、事故・災害・問題行動の未然防止を図ります。ものづくりマイスターの先生方にも意見を求め、複数の目で安心安全の確保に努めます。 【成果指標】 ・系会議を含め情報共有や教員間連携の場を積極的に設け、今後の指導等の充実に繋がります。 ・年間を通して重大事故や災害ゼロを目指します。</p>	<p><機械系> ・系会議を年間行事に記載することで、学校行事に沿った計画的な運営ができた。さらに必要に応じて臨時的系会議を行い情報共有に努めた。これにより生徒情報や実習設備の状態等の共有を図り、積極的な意見交換や指導方法を、横への繋がりとして共有し実践へと繋ぐことも出来た。 ・講習会や研究会の配付資料を回覧して最新技術や各県・各校の課題や実践例を提供することで、昨今の工業教育の課題と方向性を情報共有することに務めた。 ・実習作業中の重大災害件数 ゼロ。特に実習前点呼において、安全指導だけでなく社会人になっていくうえで必要な資質やマナー、そして今後の人生を考えるきっかけを与え、「聞く姿勢」を身につけさせた結果として重大災害ゼロに結びついたと考えている。さらには実際の作業現場での安全への取り組みを、情報共有として職員間に周知することも重大災害ゼロに結びついたと考えられる。</p>	
<p><保健安全> ・学校医と連携し生徒の健康状態や健康上の課題、学校環境について情報交換を行い生徒や保護者にフィードバックします。 【活動指標】 ・学期当初に学校生活への順応が心配される生徒についてはできる限り保護者を交えて情報共有をおこない、家庭との連携を密にして確かな支援が行えるよう取り組みます。 ・生徒の健康に対する意識を高め必要な情報を提供するため定期的に保健だよりを発行します。また職員や生徒を対象とし緊急時の対処法等について研修会を実施します。 【成果指標】 ・毎月1回保健だよりを発行します。年に1回程度、職員対象に研修会を実施します。</p>	<p><保健安全> ・学校医との連携、生徒の健康状態や課題についての情報交換、および生徒や保護者への情報のフィードバックについては概ね達成できたと思います。 【活動指標】 ・学校生活への順応が心配される生徒の保護者を交えた情報共有、および家庭との連携については目標通り達成できました。目標とした支援についてもほぼ達成できたと思います。 【成果指標】 ・生徒の健康に対する意識高揚と情報提供のための保健だよりの発行は目標の回数を達成しました。職員を対象とした研修会の実施も目標を達成しました。また、今年度は部活動生徒を対象にAEDの使用法・心肺蘇生法についても研修会を実施することができました。</p>		

情報共有と連携	<p><生徒指導>生徒情報を共有しやすい環境にするため、生徒指導室の雰囲気作りに努める。問題行動や事故等が発生した場合は、情報を共有して、学年・系・分掌と連携して指導できる体制作りに努める。</p>	<p>情報共有が出来ているので、引き続き継続していきたい。</p>
	<p><総務>保護者・地域住民・報道機関への資料提供 【活動指標】 ・資料の提供については透明性をもって対応に努める。 ・本校の活動がより多くの報道機関に取り上げられるよう、すぐーる、Google classroomなど活用し、保護者・地域住民への情報提供に努める。</p>	<p>透明性を持った資料提供に努めることができた。すぐーる、Google classroomなどにより、保護者・地域住民への情報提供に努めた。</p>
コンプライアンス・総勤務時間の縮減	<p><学校全体> 設定した日の定時に退校できた教職員の割合・・・90% 予定通り休養日を実施できた部活動の割合・・・100% 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合・・・100% 時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数・・・0人 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数・・・0人 1人当たりの月平均時間外労働・・・15時間以下 1人当たりの年間休暇取得日数・・・17日以上</p>	<p>R5 85% → R6 95% R5 99.2% → R6 99.5% R5 100% → R6 100% R5 5人 → R6 7人 R5 37人 → R6 36人 R5 16時間 → R6 15.8時間 R5 15.7日 → R6 15.1日 目標は達成できない取り組みもあったが、会議内容等の精選により、勤務時間縮減につながったと考えられるので、さらなる取組を継続していく。</p>
	<p><1学年> ・普段のコミュニケーションを活用して、担任会などの会議を最小限に控えます。 ・お互い年休が取りやすいように協力し合います。 ・コンプライアンス遵守を徹底し、信頼される教職員を目指します。 ・副担任とも連携を取りながらHR活動を行います。</p>	<p>・学年団で集まった時に、生徒等の情報共有を心がけている。 ・互いに休みを取りやすいよう、副担任の先生とともに協力する体制ができています。 ・生徒を指導する際、その場に複数の教員がいるよう心がけている。</p>
	<p><2学年> ・普段から情報共有をしっかりと行い、学年会開催を最小限にします。 ・総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境を作ります。 ・副担任とも連携し、HR活動を分担して行います。 ・コンプライアンスについては、日頃から意識を高め声を掛け合えるような雰囲気を作ります。</p>	<p>・情報共有を普段から行うことで、学年会を最小限にすることができた。 ・朝の基礎学力の準備や資格試験の学習会、部活動などのため年次有給休暇の取得に関しては個人間での差が発生している。 ・修学旅行などを通して副担任とも連携をとることができた。 ・コンプライアンスについては、ニュースなどの話題を用いて日頃から高め合えた。</p>
	<p><3学年> ・進路決定の為の情報共有を密に実施します。クラスルームなどの掲示板など利用し最新の情報を提供できるように工夫します。 ・学年団や副担任と連携を取りながら、学年・学級運営を円滑に実施します。 ・コンプライアンスを遵守し、生徒に信頼される教職員を目指します。</p>	<p>・常日頃から情報共有をしっかりとしたおかげで進路決定をスムーズに行うことができた。また、各分掌と協力して、生徒に最新情報を提示できた。 ・学年団で連携がとれているので、急な年休などでもしっかりと対応することができた。 ・学年団全員が、常にコンプライアンスを意識し、生徒に対応した。</p>
	<p><機械系> 法令を遵守し、座学授業や実習方法・内容、さらには機械系内における業務を効率化し、情報を積極的に共有することで、教員の負担を軽減し、勤務時間縮減や「休みやすい」「働きやすい」職場環境を目指します。 【活動指標】 機械系関係施設の環境整備、教材・資料の整理と共有、機械系内業務を担当者だけに頼らず分散化し、協力・協働の実践に繋がります。 【成果指標】 機械系全教員の総勤務時間縮減</p>	<p><機械系> 法令を遵守し、生徒・職員の人権を守るとともに規範意識の向上に努めることができた。 「情報共有と連携」であげたように、系会議を積極的行うなどして、職員同士の業務の状況を理解することができたことで、各職員の過重な業務の負担を分担することが少しでもできたと思う。今後も職員間のコミュニケーションが積極的に行われるような環境作りに努めることで、職員の負担感を軽減できるようにしたい。</p>
	<p><電気系> 経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。そして業務の効率化を実現して労力を軽減し、総勤務時間の縮減を目指します。 【活動指標】電気系職員が業務の効率化と勤務時間の縮減が実感できるよう互いに協力して取り組みます。 【評価指標】業務の効率化と勤務時間の縮減に対する電気系職員の達成度の向上を目指します。</p>	<p>授業・実習とに関して経験や知識が活かせる取り組みと、お互いにサポートすることでスキルアップする環境ができています。 このことは効率化と勤務時間縮減につながっている。それぞれの持つ強みを生かした取り組みができている。このことも効率化に寄与している。</p>
	<p><総務部> ・会議資料作成などの事務仕事において、全員が協力する体制を作る。 ・職務の円滑な運営を実現するため、部内の情報共有を密にする。データファイル等の所在を明確にし、いつ・誰が欠勤しても仕事を継続して行えるようにする。</p>	<p>・会議資料作成及び記録について、全員で協力して行うことができた。 ・分掌内のフォルダを活用して、部内の情報共有を行うように努めた。担当者にしかわからない点の解消の方策をさらに考えていくことが今後の課題である。</p>

コンプライアンス・総勤務時間の縮減	<p><保健安全部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健安全部の分掌業務を公平に分担し特定の職員に負担が偏らないようにします。職員相互の信頼関係を密にし、互いに連携して業務を効率的に遂行します。 ・業務を計画的に行い事前の準備を周到にして時間に余裕を持った業務展開することで、過重労働が無いよう取り組みます。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健部職員の対話や情報共有を密にして連携協力して業務に取り組み、一人ひとりの総勤務時間を縮減します。 	<p><保健安全部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健安全部の業務の公平な分担についてはほぼ目標が達成できたと思います。職員相互の信頼関係と連携および業務の効率的な遂行についても概ね達成できたと思います。 ・業務の計画的な準備、時間に余裕を持った業務展開および過重労働の防止についてもほぼ達成できたと思います。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健部職員の対話と情報共有、連携協力、一人ひとりの総勤務時間の縮減についてもほぼ達成できたのではないかと思います。
	<p><教務部></p> <p>各系の業務を相互に連携・協力し、職務にかかる時間の削減をはかります。また、業務の円滑な運営およびコンプライアンスの遵守のために、教員間で情報共有を密にし、相互にコミュニケーションが取れる雰囲気づくりを目指します。</p> <p><教務部：図書></p> <p>個人情報の管理を徹底し、図書館システムを利用することで、処理や業務をスムーズに行います。</p> <p>部内での情報共有をはかりスムーズな図書館運営を目指します。</p>	<p><教務部></p> <p>教務部の部員数が減っていく状況にある中で業務内容を精査し、職務にかかる時間の軽減に努めました。相互にコミュニケーションがとれる雰囲気づくりを目指し、お互いが助け合い職務にかかる時間の分散、軽減に努めました。</p> <p><図書></p> <p>利用者情報の管理を徹底し、速やかに対応ができました。</p> <p>全国および三重県学校図書館協議会や学校図書館司書部主催の研修、また校内研修に積極的に参加し、知識の習得だけでなく他の先生方との情報共有ができ、結果的にスムーズな図書館運営に繋がりました。</p>
	<p><生徒指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事内容を精査、簡素化し部員減少にも柔軟に対応出来る体制を整える。部の連絡はホワイトボードや普段の会話を利用し、部会の回数、時間を抑えます。 ・係分担を行い、特定教員に負担がかからないようにします。 <p>また、互いに抱えている仕事を理解し合い、協力し合える雰囲気を作ります。</p>	<p>挨拶は、ほとんどの生徒がしてくれている。身だしなみに関しては、着こなし講座を実施したことで良くなった。きれいな学校に関しては、ロッカーの上の荷物やゴミなどが無いように指導していきたい。頭髪ルールが緩くなり清潔感がない生徒が増えてきた。</p>
改善課題		
<p>働き方改革は進みつつあり、過重労働時間は減少傾向にある。風通しの良い職場づくりを今後も目指していくことで、働きやすい職場にしていきたい。コンプライアンスに関しては、教員の発言に関する意見が生徒や保護者から寄せられており、教職員の意識を高める研修を行っていく必要がある。また、物品の紛失が発生したので、物品管理を徹底していきたい。</p>		

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーや安全教育はどの企業も徹底して取り組んでいる。工業高校の良さは、これらを高校時代に体に染み込ませていることであるので、今後も徹底した指導をしてもらいたい。そのためには、なぜこのことが必要なのか・何を目的として行うのかを明確に示すことで生徒は理解しやすくなる。 ・SHRでの基礎学力定着の取組は成果があったが、本来は授業で学力を身につけさせるべきである。授業に集中させることで基礎学力のみならず専門知識も身につけてほしい。 ・資格取得へ向けて補習等で取り組んでいるが、結果に反映されていない。粘り強く取り組ませてもらいたい。 ・「地域と歩むものづくり」をキャッチフレーズにしているので、課題研究などを利用して各工業科が地域と連携した取り組みをしてもらいたい。図書館リニューアルでは、課題研究の取り組みが活かされていて素晴らしいし、小学生向けのものづくり教室でものづくりの面白さを発信する取り組みは今後も継続してもらいたい。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業に集中できるように授業方法・授業内容を工夫・厳選する。その際、一人一台端末を使用させ、対話的・探究的な授業を実践する。そのために研究授業週間を有効に活用することで、教職員が研鑽を積めるようにする。 ・資格が何に役立つのか、どのようなメリットがあるのかを説明し、理解させることで資格取得へ向けた意欲を向上させる。 ・課題研究で企業や地域と連携したものづくりを行うなど、各工業科少なくとも1つは地域と連携することを目指す。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や地域と連携したものづくりを実践し、学校の取り組みを積極的に中学校へ発信することで、桑名工業の魅力・特色をアピールして入学希望者を増加させる。 ・HPの更新やメールによる学校情報の発信を積極的に行うとともに、保護者と教職員が連携・協力し、生徒を育成していく体制づくりに取り組む。HPの更新に関しては、中学生や保護者が理解できるように写真だけでなく学校行事の内容や生徒の感想なども記載する。